

慶應義塾大学 2026年度新入生歓迎行事 笠井叡ポスト舞踏公演

ベートーヴェンを踊る

— ベートーヴェン作曲 ピアノソナタ第32番 全楽章

人間のカラダは「音楽の結晶体」である
このベートーヴェンの最後のピアノソナタは
この結晶体を 無限宇宙の果てにまで 解き放つ

2026年6月4日 | 木 |

18:00 開演 (17:30 開場)

入場無料

慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎イベントテラス

横浜市港北区日吉4-1-1

東急東横線・東急目黒線・東急新横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン 日吉駅下車

June 4th Thursday, 2026

18:00 start (Doors open 17:30)

Admission Free

Keio University Hiyoshi Campus, Raiosha

Hiyoshi 4-1-1, Kohoku-ku, Yokohama

Access from Hiyoshi Station

(Tokyu Toyoko Line / Tokyu Meguro Line / Tokyu Shin-yokohama Line / Yokohama Municipal Subway Green Line)

主催：慶應義塾大学教養研究センター日吉行事企画委員会 (HAPP)

慶應義塾大学アート・センター

協力：慶應義塾高等学校、ポートフォリオBUTOH

コーディネーター：小菅隼人

©Keiko Onoda



Kasai Akira

Post Butoh Performance

Dancing Beethoven

The Piano Sonata No. 32 in C minor, Op.111

PROFILE

笠井 勲は1943年三重県で生まれた。裁判官であった厳格な父親、笠井寅雄の影響下で幼少時代を過ごす。1954年9月26日の洞爺丸海難事故で父親を亡くす。「イエスの復活」という歴史的事実は笠井にとって生涯のテーマといい。江口隆哉・宮操子のスタジオで学んだことでダンスの世界に入り、後に大野一雄に出会い、三年間、個人指導を受ける。1963年10月、朝日講堂で「襷儀」を踊ったことが遠因となって土方巽と出会い、1965年11月「バラ色ダンス—A LA MAISON DE M. CIVECAWA」(千日谷会堂)に出演する。1971年大使館設立、1979年から1985年までドイツに在住した。オイリュトミー、パントマイムも視野に入れ、狭い意味での「舞踏」に囚われない表現者である。

文章家としても高い評価を得ており、神秘性、精神性を重視する姿勢は、『天使論』、『聖霊舞踏』、『金鱗の鰓を取り置く術』、細江英公との共同による写真集『透明迷宮』ほか多数の著作として結実している。その範囲は、西洋神秘学から日本の大石凝真素美『真訓古事記』まで及び、その表現は、単なる日常言語を超えて「ダンス」にまで昇華されて、熱烈なファンを持つ著述家でもある。「大宇宙の音楽が聴こえる」(『聖霊舞踏』, p.9)あるいは「聖霊とはエネルギーであって、これなしに人は一瞬たりとも生きることができない」(『聖霊舞踏』, p.26)と笠井が述べる時、例えばジョン・デイヴィース (Sir John Davies, 1569-1626) の詩に表れている—森羅万象を踊りとして捉える—ヨーロッパ前近代の《ダンス宇宙観》と通じ、現代日本を超えた宇宙性と歴史性がそのコトバにも姿を現わす。

笠井は『カラダと生命—超時代ダンス論』の冒頭で次のように述べる、「歴史というものが常に生きた存在として変化し続けている限り、どんな時代も一つの転換期です。けれども、一人の人間はすべての時代を生き続けているのではなく、ある特定の時代を生きているわけですから、自分が生きている時代そのものが、どのような転換期であるかをリアルに感じ取るためには、歴史全体を俯瞰することができるような、何らかの想像力を駆使しなければなりません」。この言葉に表れているように、笠井は、踊りにおいても、現代性、社会性を強く意識する。そして、2013年度「日本国憲法を踊る」で芸術選奨文部科学大臣賞を受賞している。笠井勲の慶應義塾大学新入生歓迎舞踏公演への出演は、2010年度「詩と舞踏のセッション：閃光のスフィア」(吉増剛造との共演)、2020年度「日本国憲法を踊る」、2021年度「使徒ヨハネを踊る」、2022年度「今、シヨパンを踊る」、2024年度「未完成」に続いて六度目である。

(小菅隼人記)

出演 ————— 笠井 勲

音響・照明 — 曾我 傑

Performance: Kasai Akira

Sound & Lighting: Soga Masaru

対象：塾生（特に新入生を歓迎します）、教職員、塾員、一般

問合せ：慶應義塾大学アート・センター 〒108-8345 東京都港区三田2-15-45 Tel: 03-5427-1621

Contact: Keio University Art Center Tel: 03-5427-1621 Email: ishimoto@art-c.keio.ac.jp